

## 標準化を考える会 経済産業省 JIS 開発途中報告

開催日時	2017年2月13日(月) 15:00 ~16:00 (説明会: 14:00~15:00)		
開催場所	経済産業省 6階		
出席者	経済産業省 永田氏・星氏	当会	南條・田近・森口
書記	森口		

### <高機能 JIS 等整備事業公募説明会>

2017年2月13日(月) 14時から経済産業省別館 8階 850会議室で実施された「高機能 JIS 等整備事業公募説明会」に参加した。

### <内容>

- ・平成29年度予算案額は5.9億円(7.0億円)(カッコ内は上限額)。
- ・事業目的・概要は以下の2点。
  - ①我が国の中堅・中小企業等が保有する先端技術や我が国製造業が強みを持つ高機能材料や製品について、それら技術・製品の性能・品質を適切に評価できる試験方法や性能・特性に関する等級等を規定した日本工業規格(JIS)の開発を行い、ユーザにおける適正な評価・選択を可能とし、ひいては新市場創造・拡大を図ること。
  - ②消費者保護、高齢者・障がい者配慮など社会ニーズが高いテーマに関する JIS の開発を行い、安心・安全な社会形成等の環境整備を図る。
- ・平成29年度実施者を公募する委託事業内容
  - ①高機能 JIS 開発
  - ②安心・安全な社会形成等に資する JIS 開発
  - ③JIS 開発横断的推進活動

### 問い合わせ先

〒100-8901 東京都千代田区霞が関 1-3-1

経済産業省産業技術環境局 基準認証政策課 担当:堀、吉田

電話: 03-3501-9232

FAX: 03-3580-1418

E-mail: hyoujyun01@meti.go.jp

### ・質疑応答

- Q1. 高機能 JIS 開発事業のテーマ「新市場創造型 JIS の開発」についてお聞きしたい。  
当該テーマは高機能 JIS 開発事業のみのテーマか。

A1. 「新市場創造型 JIS の開発」は高機能 JIS 開発事業のみのテーマである。

Q2. 安心・安全な社会形成等に資する JIS 開発のテーマ「安全・安心な社会形成等に資する JIS に関する情報収集」の事業概要は「安心・安全な社会形成等に資する JIS の開発を推進するにあたり、経済産業省が必要とする情報収集、標準化動向調査等を行う。なお、平成 29 年度は 3 件程度が見込まれる。」とある。当該「情報収集、標準化動向調査等」についてお聞きしたい。平成 29 年度の 3 件の情報収集、標準化動向調査等とは、経済産業省が必要であると認めた調査に限定されるのか。

A2. 経済産業省が必要であると認めた調査に限定される。

Q3. 過去に実施された「安全・安心な社会形成等に資する JIS に関する情報収集」の経済産業省が必要とする情報収集、標準化動向調査等の実例をご教示いただきたい。

A3. 計量制度の改正に関する調査が毎年行われている。

Q4. 今年度は契約書の様式を変更する予定とのことである。契約書の様式はいつ頃確定するか。また主な変更点はなにか。

A4. 契約書の様式は、採択結果が決定する頃までに確定する予定である。主な変更点はお伝えできない。

## <経済産業省 JIS 開発途中報告>

### 1. 研究経過報告

・NACS 東日本平成 29 年度第 28 回研究発表会 論文「標準化による安全な生活を求めて～危険や助けを知らせる音のデザイン・標準化～（草案）」を用いて、田近さんが説明された。

2. 「高機能 JIS 等整備事業公募説明会」の年間スケジュールについて、永田さんに教えていただいた。

①毎年 8 月と 10 月に、  
経済産業省 HP のニュースリリースで、  
高機能 JIS 等整備事業のテーマの様式を募集する。

↓

②1 月に標準化部会が応募テーマの中から、テーマを決定する。

↓

③2 月に管理事業者を募集する。(2017 年は 2 月 13 日)

↓

④3 月下旬に採択事業者が決定する。

### 3. JIS化に向けてのアドバイス

- ・危険を知らせる音はJIS規格として策定することは可能か？

危険を知らせる音のJIS規格はできる。⇒音のJISとして、やろうと思えばできるという意味（永田さん）

- ・防犯ブザーの音を標準化するというのも一つ。その場合、電池工業会規格を改善（改定）することになる（永田さん）。

但しそれだと防犯ブザーだけの音になり、スタ研が考えていることと方向性が違ってくる。防犯ブザーは、身近な危険を知らせる音の例としてセミナーなどで取りあげてきた。参加者はブザー音が様々なことに大変関心を持ち、統一した方がいいとの意見はでた。持ち帰って検討する。（スタ研）

- ・危険を知らせる音」のターゲットは、「子ども・高齢者・障がい者の危険と防犯」と思われる。学術的に正しい「危険を知らせる音（音符あるいは音色）」を作ることはできそうだ。専門家の協力も得られそうだ。

JIS化のポイントは、関係者を集められるか、メーカーの合意を得られるかだ。

JIS策定事務局をどこに受けてもらうかが、問題だろう。防犯ブザーに限定する「危険を知らせる音」の場合は、電池工業会が最適だが、やりたがらないだろう。（永田さん）

- ・電池工業会作成の防犯ブザーの規格「SBAS 1602:2009」（2016年改正）に「危険を知らせる音」の規格を加えてJIS化することに、電池工業会にメリットは無いだろう。（永田さん）

- ・防犯ブザーの音色は生命の危機に関わる問題であると思われが、防犯ブザーの業界基準制定の時に、なぜメロディを決めなかったのかを、電池工業会に理由を聞いてみてはいかがか。また、東京都の推奨する防犯ブザーの「自信をもって勤める」根拠についても、理由を東京都に聞いてみてはいかがか。（星さん）

- ・工業製品に使用できる「危険を知らせる音」の場合は、関係者が広がる（防犯協会、学校、警察、警備保障会社、公共団体、キッズ携帯、高齢者スマホ、ウェアラブル端末、NHK・・・）どこの事業者団体に、事務局になってもらうかが決めにくいだろう。規格協会に頼むことも考えられるが、規格協会の担当者まで特定して頼む必要があるだろう。（永田さん）

以上